

平成28年度第3回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成28年7月8日（金）午後1時30分から午後3時30分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 真理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・高鍋 房美 ・福味 真樹紅
- ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美

■出席事務局職員

- ・教育長：太田 信之 ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：清田 武宏

■傍聴者

なし

■内容

1 開会

2 教育長あいさつ

太田教育長

- 平成28年度第1回総合教育会議を、7月11日（月）に開催する。公開であり、社会教育委員におかれても可能な限り傍聴いただきたい。
- 会議では、学校現場におけるいじめや不登校等、各種統計資料等による課題を確認するほか、社会教育関連では、社会教育委員による提言の共有を図る。

- 主な議題として、学研都市を活かした教育の推進について議論する予定である。
- 7月25日（月）には、町内5小学校から代表議員の出席を要請し、子ども議会を開催する。
- 小学生を対象とした子ども議会に大きな影響を与えるものではないが、選挙権の年齢引き下げに伴い、主権者教育をどのように展開していくのか非常に注目を集めている。
- 今後は、社会科授業での取り扱いや、中学生を対象とした子ども議会のような機会の設定など、中学生へのアプローチを検討していく必要がある。

3 報告

(1) 平成28年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について

田中委員長

- 6月10日（金）、京都府社会教育委員連絡協議会総会が開催された。参加した委員には、基調講演を中心に所感を述べられたい。

高鍋委員

- 講演会では、障害者権利条約の変遷や、現状の取り組みについて学ぶことができた。

福味委員

- これまでは、障害者の自立支援が重視されてきたが、今回の法改正により、障害を個性と捉え、共生することが重点とされた。
- 同法改正の啓発に伴い、よく目にする「合理的配慮」の定義についても理解を育むことができた。
- 障害者教育の参考とするべく、同センターへ研修に伺うことも有意義と感じられた。

吉川副委員長

- ある大学の研究では、普通学級においても、数%程度は心身に障害を抱える児童・生徒の存在が確認されている。
- 研究結果からも、障害を「個性」とすること、「合理的配慮」や「共生」といった認識は、今回の法改正において非常に重要な趣旨となっている。

(2) 平成28年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会について

田中委員長

- 6月16日（木）、山城地方社会教育委員連絡協議会総会が開催された。参加した委員には、基調講演を中心に所感を述べられたい。

高鍋委員

- 講演会では、京都府警より薬物犯罪の担当者を招き、府内の現状等につ

いて学ぶことができた。

- 近年、検挙者の低年齢化が顕著となっていること、脱法ハーブなど新たな要因による犯罪が増えていることが確認できた。

福味委員

- ダイエット効果などを謳い、学生にも売りつけるなど、若年層が巻き込まれるリスクの高さを伺うことができた。
- 学生を中心に京都市内での事例が取り上げられたが、決して都心部に限られた問題ではなく、身近に迫った存在であることを改めて認識した。

事務局

- いずれの総会においても、講演が短時間であったため、研修の機会としては限られたものであった。
- 秋以降には、研究大会として講演だけでなく、ラウンドテーブル等の意見交換の機会も設けられている。いずれの委員も積極的にご参加いただきたい。

(3) その他

田中委員長

- 年度当初に確認した社会教育関連事業の実績報告と、今後の事業予定について事務局より報告願いたい。

事務局

- 総合教育会議については、冒頭の教育長あいさつで申し上げたとおり、社会教育委員の提言を共有する。
- 学研都市を活かした教育の一環としては、歴史に関する取り組みとして「デジタルミュージアム」の公開を進める。
- 9月11日（日）、町民体育大会には例年に続き参加要請されている。
- 今年度、初めて開催された「ツアー・オブ・ジャパン」では、3万人の来場見込みに対し、5万人の来場を得ることができた。
- 7月25日（月）、子ども議会においては、これまでと同様、本会議とテーマ別委員会を開催する。
- テーマ別委員会では、二つの委員会を設置し、積極的な意見交換ができるよう学校教員の参加を得、議事進行する。
- 9月11日（日）、町民体育大会では引き続き参加要請されている。例年どおり、ご予定いただきたい。

田中委員長

- 町民体育大会では、参加する自治会が減少傾向にある。対策や見直しの検討は進んでいるのか。

高鍋委員

- 小学校区ごとの開催策もあるが、企業との交流もできるような機会とし

てはどうか。

- 研究所の福利厚生の一環として採用されれば、在勤者の参加を促すことができる。

福味委員

- 校区を越えた町全体のコミュニティ形成も重要であるが、近所同士のコミュニティが希薄化する中、小学校区ごとにテントを固めてみてはどうか。

事務局

- 例年、どのような競技が参加しやすいのか、体育協会と検討を進めているところである。
- 競技系種目の充実や、フリー参加によるニュースポーツの体験など、様々な意見を整理する必要がある。
- 法改正に伴い、民間バスの借り上げ料が高騰したことも、参加自治会の減少要因の一つと考えている。
- 参加自治会は、自治会ごとにバスを借り上げ、子どもや高齢者を含めた関係者の送迎を行っている。
- 種目の見直しのほか、細かな調整も含め、ご発言いただいた意見も参考に検討していきたい。

高鍋委員

- ツアー・オブ・ジャパンは国際的な自転車レースであり、世界有数のイベントである。
- 子どもたち、地域住民にとって非常に貴重な機会である。精華西中学校校区に限らず、町の全ての児童・生徒が関われるよう調整を進めてはどうか。

事務局

- 当日は、平日開催となるため学校行事と十分な調整を図る必要がある。
- 関連事業として実施される、ウィーラースクール（自転車体験教室）などへの参加促進は検討していきたい。

4 議事

(1) 近畿地区社会教育研究大会について

田中委員長

- 近畿地区社会教育研究大会滋賀大会について、開催要項が公表された。詳細を確認していきたい。

事務局

- 近畿地区社会教育研究大会滋賀大会について、9月9日、大津市市民会館等で開催される。

- 全体会では、開会行事のほか、記念講演として、近江八幡の水郷地区を活かしたまちづくりの事例が発表される。
 - 午後は、テーマごとに設定された分科会が開催される。参加される委員については、事前に確認した希望の分科会にご参加されたい。
- ⇒質問等、その他特記事項なし。
- 上村委員、谷委員、堀内委員が欠席である旨、確認。

(2) 社会教育委員の提言について

田中委員長

- 教育委員会に対する提言について、前回までは進捗状況の確認について議論を進めた。社会教育委員として、確認するだけでなく、自らが何か実践できないかどうか検討したいと考える。

清水委員

- 地域住民と子どもたちのコミュニティ形成を育む活動として、学校を会場とした事業を実施してはどうか。
- 山田荘小学校サポーター会議（学校支援地域本部）を単位とし、各種ボランティアと子どもたちが一堂に会する事業を実施したいと考える。
- ボランティア同士の交流、子どもとボランティア（地域の大人）の交流を促すのに効果的ではないか。
- 学校活動では体験できない、キャンプのような屋外活動、地元野菜を使った調理実習、防災訓練などができないか検討したい。

上村委員

- 親子参加型で、家庭教育の啓発を交えたような取り組みをしてはどうか。

福味委員

- 様々な課外活動は、ボランティアの協力が必要である一方、いずれの校区もボランティアの固定化が目立つ。
- 新たな取り組みには、保護者にも参加いただき、ボランティアの必要性を改めて認識してもらえようものとしてはどうか。

吉川副委員長

- 新たな取り組みを社会教育委員自身が実践することに賛同するが、活動の趣旨や目的を整理した後に着手してはどうか。趣旨や目的、対象が整理できていないままでは、一過性の取り組みになってしまう。
- 学校現場や子どもたちのニーズも含め、十分な検討が必要と考える。

田中委員長

- 地域のコミュニティ醸成を目的とすること、学校を現場とすること、地域住民と保護者と子どもが一堂に会するような課題活動とすることを前提に進めていきたい。

(3) その他
特記事項なし。

(4) 次回委員会議
平成28年10月4日(火) 13時30分～

5 閉会